

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.622

★「読書週間」ポスター完成(2頁)
★実演活動と著作権について(6頁)

「読書週間」によせて

本を選ぶということ



公益社団法人日本図書館協会
図書紹介事業委員会
秋本 敏

あきもと さとし
秋本 敏

「電子本貸出図書 研究図書
紙か電子か我々が収蔵しなけ
れば10年後誰かが必要とし
た時その本が見つかからない」
公開中のドキュメンタリー
映画『ニューヨーク公共図書
館 エクス・リブリス』の予
告編の一部です。どのような
資料を蔵書にすべきかを図書
館スタッフが真剣に議論して
いる、選書にかかわる重要な
シーンです。

選書とは、「図書館が受入
れる図書その他の資料を選定
すること」(『図書館用語集
四訂版』日本図書館協会用語
委員会編)です。選書で大切
なことのひとつは、地域の変
化や利用者の動向などをつね
に把握しておくことです。私
が勤務した公立図書館の例で
すが、ある時点から専門的な

看護学や医学に関する図書が
頻繁にリクエストされるよう
になりました。はじめは専門
的な内容なので購入をため
らっていましたが、市内の看
護師養成施設が専修学校にな
り、その学生たちがリクエ
ストをしていることがわかり
ました。図書館ではこの変化
に対応して、今後も利用が統
くと判断し、専門的な図書を
選書する方向に変えたことが
ありました。

利用者の貸出やレファレン
スの動向なども選書に反映さ
せなければなりません。特定
分野に関心がある利用者がい
れば、関連する図書を選書す
ることもあります。選書され
た図書を書棚で見つけた利用
者に「この本とても役に立つ
たよ」と声をかけられると、

司書冥利に尽きます。
選書を行うために大切なこ
とのふたつ目は、出版状況の
把握です。そのためのツール
が出版社の新聞情報、書評
誌、新聞の書評欄などです。
そんなツールのひとつだっ
たのが、1949年にはじ
まった日本図書館協会の『選
定図書速報』『選定図書総目
録』でした。公立図書館や学
校図書館での選書の指針とな
り、多くの図書館では『選定
図書』をもとに選書した時代
がありました。私も新館建設
準備のときは、たいへんお世
話になりました。選定事業
は、2016年で終了しまし
たが、これを引き継ぐものと
して2017年に図書紹介事
業を開始しました。

この事業は、選書の参考と
なる図書の紹介を行うもので
す。内容は、①公立図書館など
における選書等の参考に資す
る図書の書評による紹介、②
選書ツールとしてふさわしい
書評の質の確保、という2点
です。具体的には『図書館雑
誌』に「図書館員のおすすめ
本」コーナーを設け、毎月4冊
を紹介しています。また、『週
刊読書人』『週刊読書人ウェ
ブ』にも転載されています。
全国各地の司書が、これぞと
思う図書を紹介しているユ
ニークなコーナーになってお
り、図書館にとっては、選書の
参考と自館にない図書の情報
を得る機会になっています。
日々の選書によって蓄積さ
れていく蔵書は、図書を探し
求める利用者には強い味方だ
す。多くの図書は年月が経つ
と、品切れ絶版になります。
しかし、「10年後誰かが必要
とした時その本」が蔵書の中
にあれば、「誰か」が「その
本」に出会うことができます。
ニューヨークでも日本でも、
そんな出会いが選書によって
つくられているのです。



おかえり、 菜の場所で待ってるよ

2019・第73回 読書週間

10/27～11/9



ポスター完成しました！

図書館・書店・学校など、掲出にご協力ください

「2019 第73回・読書週間」のポスターが完成、9月12日より順次、発送しています。

標語・イラスト募集に応募いただいた方、選考委員、デザインを担当したプラス・アイなど、すべての関係者に感謝いたします。ポスターは6万2千枚を製作、全国の小・中・高校、公共図書館、

書店などに配布、掲出をお願いいたします。出版社、新聞社、テレビ局などのマスコミ関係機関にも、「読書週間」趣旨書と運動普及活動の要請書を同封し送付する予定です。

今年の標語は、「おかえり、菜(しおり)の場所で待ってるよ」です。入選者の水口真優子さん(日本出版販売)は、「日々の時間と環境は、

ときには私を置いていつてしまうほど早く過ぎ去ってしまうときもあるけれど、ほっと開いた本の世界は、私の帰りを待ってから進んでくれる。ひとり暮らしをはじめ、昔以上に本が好きになりました」と、標語の背景にある思いを紹介してくれました。

ポスターイラストは、愛知県津島市の大学生 富山涼太さんの作品。「つねになか追われる毎日、疲れちゃいますね。そのなかでいつも待っていてくれるのが本です。開いてあげれば、笑わせにきたり、泣かせにきたり、さまざま感情に連れていってくれます。そんな本のことが、私は好きです」と、受賞のこぼれをいただきました。

にあわせ、しおり作りのワークショップや、めずらしいしおりの展示、「待つ」「帰る」がテーマの図書展示などができよう。本年度も、日本雑誌協会の特別なご協力をいただき、多くの出版社の雑誌に告知広告掲載のお願いをしました。電通の協力で新聞各紙やテレビ・ラジオの情報番組でも取りあげてもらおう、努めています。

読書推進運動協議会ホームページ (<http://www.dokusyo.or.jp>) では、ポスター・マークのデータ、このページにも使っているロゴデータ(各種フォントあり)のほか、図書館、書店での展示に活用いただけるポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを配布しています。

1947年(昭和22年)、まだ戦火の残る時期、「読書の力で平和な文化国家を」を目標に誕生した「読書週間」。さきの戦争の体験者が少なくなり、記憶の風化が危惧される今日でも、各地に残された資料からあらたな事実が発掘されています。きちんと資料を集め、残すこと、それを読み解く人がいることで平和への思いが未来へつながる。ことばと本、読書の力がこれからも必要です。



イラストレーション／富山涼太
標語／水口真優子
デザイン／有原文絵(プラス・アイ)

「絵本ワールドinふくしま」開催

作家といっしょにお絵描き！ 子どもたちの発想が光る2日間

8月10日(土)、11日(日)、福島県郡山市のビッグパレットふくしままで「絵本ワールドinふくしま2019」作家と親子の読書の交流を〜(主催)同行委員会が開催された。

念撮影にに応じていた。会場では両日通じてさまざまなイベントが開催された。

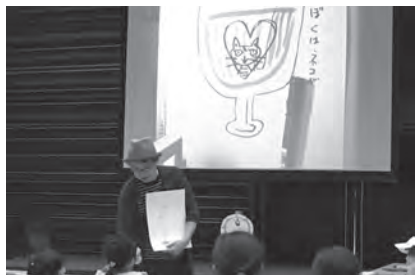
10日午前中は絵本『あなたの一日が世界を変える』『交響曲「第九」』が世界を変えて！板東俘虜収容所「奇跡の物語」などの絵を担当した画家の古山拓さんとの「お絵かきタイム」。「ほく、わたしだけのゆかいな夏を描こう」というテーマで、古山さんがふだんから絵のアイデアを練る際に用いている「思い付きの木」という方法で子どもたちから夏のイメージをこ



ユニークな力作ぞろいの夏の絵を背景に古山拓さんと子どもたち

とばにして引き出していき、最終的に「かき氷のような魚がスイカ割している」というお題を決めて、みんな楽しくお絵描きをした。

午後は福島県在住の絵本専門士グループ「くりーむブックス」による「ドラマチックおはなし会」で、『はじめまして』『はらぺこあおむし』『だいくとおにろく』などの作品をときには複数の読み手がキャラクターの声を担当してダイナミックに読み聞かせた。その後は絵本作家・丸山誠司さんの



奇想天外なオリジナルソーダが飛び出した丸山誠司さんのワークショップ

『そうだソーダ』ができるまで。丸山さんがみずから絵本を読み聞かせして、アイデアのメモ書き↓下書き↓9回もの書き直しなど、本ができていくまでの過程を紹介した。子どもたちが考えたオリジナルのソーダを絵にかいて、その名前を当てつこするクイズなどが行われて大いに盛りあがった。

11日は絵本作家・広瀬克也さんの「読み聞かせ&ぬり絵タイム」、「図鑑でびっくり！大クイズ大会」、絵本作家・宮本えつよしさんの「読み聞かせ&ワークシヨップ」などが行われた。渋沢やこさんの「なにぬの屋 布の紙芝居」も子どもたちを楽しませていた。メイン会場では「子どもの本大展示」として約1万冊の絵本や児童書が展示即売された。

全国図書館大会 三重大会開催へ

新時代の図書館づくりの ヒントがまった大会を目指す

11月21日(木)・22日(金)、三重県総合文化センターで、「第105回 全国図書館大会 三重大会(主催)日本図書館協会/三重県ほか」が開催される。テーマは「令和の新時代を拓く図書館×常若(とこわか)のくからの発信」。三重県で同大会が開催されるのは、はじめて。

「児童サービス」「専門図書館」図書館情報学教育」「著作権・障害者サービス」「障害者サービス」図書館の自由「目録」「資料保存」「出版流通」「図書館災害対策」「職員問題」「多文化サービス」の15分野19テーマが予定されており、活発な実践報告と問題提起、議論が期待される。

21日の記念講演は、吉丸雄哉さん(三重大学教授)の「忍者研究の最前線から地域と図書館を考える」。三重大学の忍者研究の成果や、最近の忍者研究に図書館が果たしている役割、図書館が忍者資料や関連書籍を所蔵・展示することなどが地域づくりにどう影響を与えているかなどが紹介される。当日は、三重大学と共同で「伊賀と忍者」展も開催される。

分科会は、「公共図書館」「大学・短大・高専図書館」「学校図書館」あり。参加には事前の申し込み(10月21日締切)と参加費が必要。宿泊手配の申し込みも同時にできる(締切日以前に満室となる場合もある)。



全国図書館大会 三重大会チラシ

●第105回 全国図書館大会 三重大会 ホームページ
<http://105th-mietaikai.info/>
(大会情報の確認と、参加申し込みができます)

■「絵本ワールドinとくしま」開催

徳島で初開催！ 地元出身＆在住の作家も登場

8月17日(土)、18日(日)、徳島県阿南市の阿南市文化会館夢ホールで「絵本ワールドinとくしま2019」(主催〓実行委員会)が開催された。

10時からの開会セレモニーには絵本キャラクターのぼくは王さま、地元マスケットのすだちくん(徳島県)、あななん(阿南市)たちが登場して盛りあげた。セレモニー後もかいじゅうさんとピイチヤンたちと入れ替わりで会場に現れ、子どもたちと記念撮影するなどして活躍した。



登場する作家ごとに絵本やグッズを展示

8月17日(土)、18日(日)、徳島県阿南市の阿南市文化会館夢ホールで「絵本ワールドinとくしま2019」(主催〓実行委員会)が開催され、本を手にした親子づれが並んだ。

ホールでは両日さまざまなイベントが行われた。

17日午前中は「放浪の合唱作曲家」と呼ばれ、絵本『しあわせになあれ』も出版している弓削田健介さんのコンサート。午後は恐竜画家・絵本作家CANさんの「恐竜ライブペインティング」。CANさんが刊行前の新作絵本の内容を紹介し、子どもたちのリクエストに応じてスピノサウルスなどの恐竜の絵を即興で描きあげた。

続いて『おこだでませんように』『三年一組 春野先生！』『交響曲「第九」 歓びよ未来へ！』などの作品で知られる、徳島県出身・在住の児童文学作家くすのきしげのりさんのおはなし講演会「一人ひとりが、みんなたいせつ」が開催され、くすのきさんがたくさんの自作について、登場人物や学校・場所のつながり、時系列などを解説しながら、時系列などを解



CANさんはリクエストに応じて恐竜のイラストを子どもたちに！

説しながら紹介したのち、『おこだでませんように』を読み聞かせた。

18日は絵本作家サトシさんの「絵本よみましょ」のなかでサトシさん自身の楽曲にあわせて、「はななかタンサーズ」の子どもたちがかわいいたんずを披露した。絵本作家の羽尻利門さんの「読み聞かせ&ワークショップ・原画展」、『ノラネコぐんだん』シリーズで知られる工藤ノリコさんのサイン会も開催された。

また、両日とも随時、学生ボランティアによる読み聞かせ会が行われたほか、ホール前庭では阿南市移動図書館ひまわり号が本の出張貸し出しを行った。あわせて「子どもの本大展示」として約1万冊の絵本や児童書が展示即売された。

■JBBYが連続講座を開催

世界の子どもの本の現在と 富安陽子さんの作品の魅力を探る

日本国際児童図書評議会(JBBY)は、「世界の子どもの本講座」新・国際アンデルセン賞講座を開催している。

国際児童図書評議会(JBBY)が主催する国際アンデルセン賞は「小さなノーベル賞」といわれ、2年に一度、各国を代表する作家と画家がひとりずつJBBY支部より推薦され、厳正な国際選考会により受賞が決まる。近年では、上橋菜穂子さんが2014年に、角野栄子さんが2018年にJBBYより推薦され受賞した。この講座では、同賞関連の講演を含めながら、世界の子どもの本全体に視野を広げる。7月23日(火)に第1回「パク ジョンチェの新しい絵本の世界」が韓国の絵本作家パク・ジョンチェさんを講師に開催された。9月4日(水)開催の第2回「富安陽子の人と作品」では、大阪国際児童文学振興財団の土居安子さんが、2020年の国際アンデルセン賞にJBBYが推薦した富安陽子さんの魅力を紹介した。

このあと、10月17日(水)第3回



土居安子さんは富安陽子さんの作品だけでなく人柄も紹介

「国際アンデルセン賞画家賞・海外の受賞者とその作品から(後編)」講師〓福本友美子さん(翻訳家)、10月27日(日)第4回「富安陽子講演会「物語が生まれる時」」講師〓富安陽子さん(作家)、11月6日(水)に第5回「国際アンデルセン賞作家賞・海外受賞者とその作品から(後編)」講師〓さくまゆみこさん(編集者・翻訳家)の開催が決まっている。(第6回以降も予定あり)。会場はいずれも、東京都千代田区の出版クラブビルホール・会議室。詳細や参加申し込みはJBBYまで。

「絵本ワールドinひょうご」開催

多彩な講演会、ワークショップで 絵本の世界を楽しむ

8月24日(土)、25日(日)、兵庫県神戸市の神戸市産業振興センターで「絵本ワールドinひょうご2019」(主催〓兵庫県書店商業組合)が開催された。

と握手や記念撮影に応じていた。ほかの会議室では両日さまざまなイベントが用意され、参加者を楽しました。

24日は、くらのうさこさんの「ラッピング教室」、鉛筆画家・絵本作家の永井秀幸さんの「3Dアート体験」とサイン会、絵本作家・海一慶子さんの「お絵かき&紙バッグをつくろう」とサイン会、森忠延さんの「子どものための論語塾」が行われた。



会場ではゾロリとジオガ子どもたちをむかえる

なかでも森さんは書店を経営するかたわら、小学生を対象に『論語』を教える会を主宰し、90回を数えるという。この日も「子曰く、君子は器ならず」など、『論語』から選んだ章句を参加者と素読し、わかりやすく解説してくれた。



絵本ワールド初(?)の論語教室

また、くらのうさんは25日もラッピング教室を開催し、地元ボランティアによる紙芝居や、おはなし会、缶バッジ・カミバッグ・ぬり絵・折り紙のワークショップなどで大人も子どもも大いに楽しんでいった。

このうち楠章子さんは講演会で、認知症を患った祖母、母と向きあった体験を下敷きに描いた、代表作の『おばあは、だいじょうぶ』をみずから読み聞かせた。

この作品は、「わすれてしまふ」病氣〓認知症になつてしまった祖母の姿を、おばあちゃん子の男子小学生・つばさの立場から描いた絵本(絵・いしつとむ)で映画化もされ、今年5月に公開された。楠さんは現在も母親の介護を続けながら作家活動を続けている。

図書館問題研究会などが講演会開催

竹内愨さんと「人と図書館のかかわり」を考える

図書館問題研究会、親子読書地域文庫全国連絡会、世田谷の図書館を考える会主催の「竹内愨先生講演会」生きたための図書館」が10月20日(日)に開催される。時間は13時30分〜16時(13時開場予定)、会場は日本図書館協会研修室(東京都中央区)。

プログラムは、第一部「竹内先生講演会」生きたための図書館ーいま語りたいこと、伝えたいこと」、第二部「シンポジウム」生きたための図書館」をめぐって。

図書館情報大学名誉教授の竹内愨さんは、60年以上にわたり、図書館に携わり、90歳を超えたいまも発言を続けている。新刊『生きたための図書館』(岩波書店)では、地域における図書館のあり方、公立図書館設置運動につながった全国の文庫活動、災害と図書館、学校図書館など、さまざまな実践を紹介し、人と図書館のかかわりを考察、未来へ向けた提言をしている。講演会では、とくに伝えたかったことや、本に書ききれなかったことなどが紹介される予定。

参加には事前の申し込み(先着順、お早めにとのこと)と参加費500円が必要。お問い合わせと申し込みは、図書館問題研究会まで。
●図書館問題研究会
Tel 03-3222-5030
(月・火・木・金の12時〜18時)
FAX 03-3222-5034
e-mail tmk55@omonken.
sakura.ne.jp



講演会チラシは読進協HPでも確認できる

■著作権について考える

おはなし会、読み聞かせ、紙芝居・ペープサートなど作成のときの著作権処理って？

公益社団法人 日本文藝家協会 著作権管理部 部長 長尾 玲子

若い人の本離れがいわれて久しくなりました。でも、本とまつた無縁の人がいるでしょうか。

はじめて本と出会うのは、絵本を読んでもらう赤ちゃんのときでしょう。それから、お風呂で読める本、『ぐりとぐら』『はらぺこあおむし』『はたらくくるま』のように自分でページをめくって繰り返し眺め読む本でしょう。もう少し大きくなると、図書館、図書室や本屋さんでたくさん本と出会います。図書館は、読み聞かせ、人形劇、紙芝居、朗読、そして独りでの読書などさまざまな形でいろいろな本との縁を紡いでくれます。幼いころに多くの本と親しくなると、大人になってもちよつとした隙間時間でも本を開く人になるといわれています。

日本文藝家協会は3年前から子どもたちが本に親しむ習慣を持つ活動をしています。まず、10代のみなさんに本の魅力を届けたいと、出久根達郎理事長をはじめ9人の会員が、10代のころに「文藝

家になろうと思った本」を紹介する「よんでみよう読んでみた」をYouTubeで配信しています。

公益社団法人 日本文藝家協会は文藝家の職能団体です。毎年『文学』『短編ベストコレクション』『ベスト・エッセイ』『時代小説ザ・ベスト』のアンソロジーと『文藝年鑑』の編纂、文芸美術国民健康保険の窓口、法律・税相談の顧問弁護士・税理士への仲介、文藝者之募運営管理など、会員のための事業と公益に資するための事業を行っています。

そのひとつに著作権管理事業があり、おもに著作権管理委託契約をされた方の著作権二次使用に關しての管理業務をしています。日本文藝家協会著作権管理部ではホームページから簡便な著作物使用申請をさせていただき、申請内容を確認のうえ、著作権者に諾否をうかがい、許諾を出し、著作権使用料を請求しお振込みいただいています。著作権使用料は文化庁に届け出た使用料規定に基づいた低

料金です。また、原著作者が逝去されても継承者と再契約をするよう努め、著作権者不明を少なくできるようにしています。著作権管理委託契約は、文藝家協会会員でなくてもできますし、会費はなく、手数料は使用者よりの著作権使用料から8〜10%をいただきます。著作物が二次使用されている方は、ぜひお問い合わせください。また、一般の方からの文藝作品の著作権についての相談や質問にも対応させていただきます。

ここからは、よくある質問と回答を、ご紹介します。

ボランティア活動、学校行事などでもっとも多い誤解は、無償で著作物使用ができると思われていることです。図書館、児童館などの非営利イベントで、入場料無料、演者無報酬の場合には、著作権法三十八条一項により著作権者の許諾は必要ありませんが、使用方法は変更のない「上演」「演奏」「上映」「口述」に限られています。Q（上映）プロジェクトを使い

絵本をスクリーンに投影したい。A 絵本そのままを映すなら許諾の必要はありません。

Q（複製）拡大カラーコピーで大規模絵本を作っておはなし会をした。A 複製を作るので、絵と文の著作権者の許諾が必要です。

Q（脚色）絵本を原作として、短い時間で見られるパネルシアター、ブラックライトシアター、エプロンシアター、ペープサートなどを作って上演したい。A 短くするための脚色があるので、改変にあたります。許諾が必要ですが、また、作品によっては絵と文を切り離すことを、お断りされています。

Q（ワークショップ）子どもたちが自分の好きな絵本を原作として

楽しいおはなし会を通じ著作権への理解を深めることが、すぐれた作品を後世に伝える基礎になる



紙芝居を作り、発表するワークショップをします。各自が持ち帰り、ほかでは使いません。

A 私的使用なので許諾の必要はありません。くれぐれも原作に忠実に作るようにご指導ください。

Q（福祉目的）障がいのある子どもたちのために布絵本、デイジー図書、拡大本をボランティア団体で作ります。

A 布絵本を作るときには、絵と文の許諾が必要です。デイジー図書、拡大本の許諾は、所属されているボランティア団体が授業目的のボランティア団体に登録されている録送信著作権等管理協議会に登録されているれば許諾の必要はありません。

Q（お勧め本リスト）図書館でお勧め本リストを作り、学校や来館者に無償で配布します。書影を使うのは許諾が必要ですか。

A 書籍の紹介なので原則許諾の必要はありませんが、版元の出版社にご連絡ください。

丹精して創作した作品が、無断で変えられたり、使われたりすることが愉快に思えるでしょうか。著作物使用の許諾を得るのは著作者に対する敬意を払うことであり、安易に改変をしないことは、次の世代へすばらしい作品を手渡すために必要なことなのです。

優良読書グループの歩み (9)

2018年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

藤岡市読み語りの会 ネットワーク

代表者 美細津美恵

群馬県藤岡市

〈推薦〉

群馬県読書推進運動協議会

藤岡市読み語りの会ネットワークは、2001年9月に市内の10グループが参加し、設立されました。藤岡市の理解と援助をいただき、「子どもたちに豊かなおはなしの世界を届けるための学びの場」として活動を続けています。

おもな事業は、情報交換会(年3回)、研修旅行会、講演会です。情報交換会は、子どもたちに喜ばれた本の報告やお薦めの本の紹介、年齢にあわせた本の選び方、個々のグループの問題点などをさまざまな内容を話しあう会です。ときには、他市から長く読み聞かせをされている方をお招きしてアドバイスと実演をいただき、会員みずから「聞くことの楽しさ」を

味わい、子どもたちに伝えるための糧を養う場としています。

研修旅行では、絵本美術館を訪ね原画にふれたり、出版社を見学し、編集者の方々のおはなしをうかがうことで、絵本や児童書を創る苦労を知り、作品をより深く理解し大切に伝えることの重要性を再認識しています。

講演会は絵本作家をお招きして、創作にあたっての苦労や、作品にこめた思い、読者に伝えたい



会員以外の参加者も多い大盛況の講演会

ことなどをうかがいます。毎回会場が満員になるほど好評をいただいています。研修旅行以外は一般の方々にも参加を呼びかけ、ネットワークが市内の読み聞かせ活動繁栄のための指針となれるよう努力をしています。

図書館、児童館、小学校、中学校、公民館とそれぞれのグループの活動場所や内容は異なりますが、今回の受賞により、ネットワークを通して学ぶことで、「会員自身の感性をより豊かに育み、おだやかに心地よいおはなしの世界を伝えていかなくは」と、みずからを戒めて活動しているよう、思いました。

菜の花読書会

代表者 田中 康子

福井県大野市

〈推薦〉 福井県読書推進運動協議会

戦後すぐにでき、長く続いた「大野読書会」は、会員の高齢化で解散になってしまった。図書館にボスターがあつた「あじさい読書会」に入れてもらおうと思つたら、「若い人がお嫁にいつてしまつて、もうできないの」といわれました。それならばということ、新し

い読書会を作ることになりました。福井市で「短編を読む会」の指導をされていた広部英一先生にも一度、大野市へ来ていただきました。

1992年3月に図書館に集まり、小説『菜の花物語』から「菜の花読書会」と決めました。広部先生は「読書会は10人ぐらいがおもしろい」といわれました。当日都合が悪い人もあることだから、会員が20人でないと、思いました。現在、「菜の花読書会」は会員7名です。「奥越合同読書会」「福井県合同読書会」に出席できるので楽しんでます。

ほかの読書会の活動から学んで、菜の花読書会でも「文集」を作ってみることを考えたのですが、「労多く、功少なし」という意見もあり、「書くのは嫌い」と会員をやめてしまった人もありで、文集はできませんでした。読書会だから、読書に専念すればよいのだと思うようになりました。

年會費を集めて、福井県読書会連絡協議会へ會費を払い、その残額で年度末の3月に茶会をするのことにしています。「一年の感想を話しあいましょう」とはがきを出します。お茶とお菓子を会計の方に準備していただきます。全員出席です。

毎月一度の例会は、第4水曜日の午後2時から4時までと決めて、通知を出しません。図書館に掲示するだけです。掲示を見て会員になられた方もあります。

初期のころは、長編小説を読んでいた。大野市図書館の蔵書からこれを読もうと選んでいました。長編のころはふたりだけ参加ということが多かったです。あるとき、「仕事が忙しくて長編は読んでいられない。短編にして」といわれました。それからずっと、現在も短編小説です。県立図書館の「かたらい文庫」の短編小説を借りています。家で読めなくても大丈夫です。その場で読みあわせをします。声を出して読むということも、元気になる感じです。参加者もふたりだけということはなく、5人となってきました。

日本図書普及網

贈りものに。お礼、お返しに。

東山魁夷シリーズ
1,000円・3,000円・5,000円 10,000円

書 NEXT

2018年度 全国読書グループ調査 読書グループ 活動内容の重なり

……「グループ総覧」発行までは、いましばらくお待ちください

総数		読書会	研究会	実演G	文庫	読書支援	環境整備	友の会	連絡会	
読書会	全体	2134	1319(61.8%)	293(13.7%)	747(35.0%)	126(5.9%)	175(8.2%)	127(6.0%)	53(2.5%)	171(8.0%)
	子ども	913	253(27.7%)	208(22.8%)	715(78.3%)	122(13.4%)	136(14.9%)	93(10.2%)	23(2.5%)	132(14.5%)
	一般	1428	1102(77.2%)	147(13.3%)	197(13.8%)	43(3.0%)	71(5.0%)	37(2.6%)	41(2.9%)	81(5.7%)
研究会	全体	1428	1102(77.2%)	147(13.3%)	197(13.8%)	43(3.0%)	71(5.0%)	37(2.6%)	41(2.9%)	81(5.7%)
	子ども	209	293(24.2%)	360(29.8%)	692(57.2%)	72(6.0%)	116(9.6%)	41(3.4%)	29(2.4%)	187(15.5%)
	一般	831	208(25.0%)	112(13.5%)	657(79.1%)	72(8.7%)	102(12.3%)	38(4.6%)	20(2.4%)	157(18.9%)
実演G	全体	583	147(25.2%)	249(42.7%)	228(39.1%)	20(3.4%)	54(9.3%)	18(3.1%)	18(3.1%)	72(12.3%)
	子ども	8396	747(8.9%)	692(8.1%)	5914(70.4%)	487(5.8%)	421(5.0%)	537(6.4%)	85(1.0%)	548(10.1%)
	一般	8019	715(8.9%)	657(8.2%)	5643(70.4%)	480(6.0%)	382(4.8%)	529(6.6%)	82(1.0%)	537(6.7%)
文庫	全体	1307	197(15.1%)	228(17.4%)	652(49.9%)	174(13.3%)	192(14.7%)	72(5.5%)	38(2.9%)	114(8.7%)
	子ども	1191	126(10.6%)	72(6.0%)	487(40.9%)	631(52.9%)	76(6.4%)	74(6.5%)	51(4.3%)	16(1.3%)
	一般	1141	122(10.7%)	72(6.3%)	480(42.1%)	595(52.1%)	74(6.5%)	48(4.2%)	16(1.4%)	99(8.7%)
読書支援	全体	442	43(9.7%)	20(4.5%)	174(39.4%)	253(57.2%)	31(7.0%)	21(4.8%)	11(2.5%)	29(6.6%)
	子ども	1061	175(16.5%)	116(10.9%)	421(39.7%)	76(7.2%)	516(48.6%)	121(11.4%)	34(3.2%)	101(9.5%)
	一般	734	136(18.5%)	102(13.9%)	382(52.0%)	74(10.1%)	270(36.8%)	92(12.5%)	28(3.8%)	92(12.5%)
環境整備	全体	546	71(13.0%)	54(9.9%)	192(35.2%)	31(5.7%)	301(55.1%)	35(6.4%)	22(4.0%)	47(8.6%)
	子ども	959	127(13.2%)	41(4.3%)	537(56.0%)	51(5.3%)	121(12.6%)	309(32.2%)	42(4.4%)	61(6.4%)
	一般	821	93(11.3%)	38(4.6%)	529(64.4%)	48(5.8%)	92(11.2%)	232(28.3%)	27(3.3%)	58(7.1%)
友の会	全体	226	37(16.4%)	18(8.0%)	72(31.9%)	21(9.3%)	35(15.5%)	103(45.6%)	33(14.6%)	19(8.4%)
	子ども	209	53(25.4%)	29(13.9%)	85(40.7%)	16(7.7%)	34(16.3%)	42(20.1%)	50(23.9%)	48(23.0%)
	一般	131	23(17.6%)	20(15.3%)	82(62.6%)	16(12.2%)	28(21.4%)	27(20.6%)	22(16.8%)	34(26.0%)
連絡会	全体	127	41(32.3%)	18(14.2%)	38(29.9%)	11(8.7%)	22(17.3%)	33(26.0%)	36(28.3%)	26(20.5%)
	子ども	771	171(22.2%)	187(24.3%)	548(71.1%)	102(13.2%)	101(13.1%)	61(7.9%)	48(6.2%)	86(11.2%)
	一般	682	132(19.4%)	157(23.0%)	537(78.7%)	99(14.5%)	92(13.5%)	58(8.5%)	34(5.0%)	63(9.2%)
総数	子ども	216	81(37.5%)	72(33.3%)	114(52.8%)	29(13.4%)	47(21.8%)	19(8.8%)	26(12.0%)	24(11.1%)

「2018年度 全国読書グループ調査」において、「読書グループの活動内容の重なり」のデータ集計が終わりました(以下、数値はすべて速報値。最終的に変わる可能性があります)。左記の表を参照ください。

「総数」にある活動内容を回答したグループのうち、その他の活動も含まれたグループ数と総数に対する割合の表です。色のついている部分は、活動内容がひとつのみのグループとなります。前回調査と比べ、読書会・文庫のみのグループ数が減少、その多くが実演活動を取り入れているようです。

事務局報告(8月)

- ☆2日「敬老の日読書のすすめ」リーフレット出来
- ☆5日「野間読書推進賞」事業委員へ選考進捗報告会資料送付
- ・6日「大震災」出版対策本部運営委員会 出席
- ☆7日「機関紙「読書推進運動」621号入稿
- ☆8日「機関紙「読書推進運動」621号責了
- ・8日「上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会出席
- ・10日「絵本ワールドinふくしま2019」(郡山市・ビッグパレットふくしま) 出席
- ☆13日「機関紙「読書推進運動」621号出来
- ☆13日「野間読書推進賞 選考準備委員会」開催
- ・17日「絵本ワールドinとくしま2019」(阿南市・阿南市文化会館夢ホール) 出席
- ☆19日「野間読書推進賞 選考委員へ選考会資料を送付
- ☆20日「読書週間」ポスター入稿
- ・20日「文化書業信用組合・広瀬常務理事、日本書籍出版協会・中町専務理事に「上野の森親子ブックフェスタ2019」全社監査を依頼
- ・24日「絵本ワールドinひょうご2019」(神戸市・神戸市産業振興センター) 出席
- ・26日「文部科学省と来年度「子ども読書の日ポスター」について打ちあわせ
- ・28日「講演会(社長会)出席
- ☆29日「読書週間」ポスター責了
- ・31日「第27期「JPTIC読書アドバイザー」養成講座」開講式出席

編集部 & 事務局のひとこと

● たいま、複数問題に悩んでおります。……といっても、家庭内での話です。

● この18年、新刊を待ちわびた小説がいよいよ今年10月と11月に刊行されます。「新刊が出る」と聞いては延期になり、その後数年音沙汰なしという年月を重ねてきたため、原稿があがったというニュースを聞いても半信半疑。発行日が決まったといわれてもまだ信じられない。タイトル、背表紙、そして表紙が公開され、やっと「ああ、ついにこの日が!」。安心してシリーズの既刊9タイトルを読み返してはじめて(過去にも)「そろそろ出るみたい」と読み返し、出なくてがっかりしたことが数度あったため、慎重になつていった。同好の士である夫も一緒に、読み返し開始です。

● このシリーズ、3種類の文庫版があり、わが家の書架にはすべてそろっています。なので、読み返しはふたり同時にできるので、さて、新刊はどうしたらよいものか。すぐ読みたい気持ちはふたりとも同じ。しかし2セツト用意するか。しかし新刊は文庫4分冊、4×2で8冊……。ただでさえ本が書架からあふれている状況でこれはきついです。読むスピードが速い私が一気に読んで夫に回すか。でも、これだけ待ったんだからじっくり読みたいしなあ。おたがい、読みながら語るのも、読書会みたいでおもしろいかな……。● 刊行日まであとひと月、ワクワクドキドキの幸せで悩ましい日が続きます。(伸)